

8号館



① 《眼ざし注がれる時》

制作者：藪野健

制作年：1997年

寸法：162×259cm

素材：油彩、キャンバス

幾重にも連なる階段が印象的なこの作品は、どこか不思議な雰囲気醸し出している。それはこの街がローマ、イスラーム、カトリックの各文化を混合させた空想都市だからである。画面上部、街の奥に立ちこめる黒い雲のような影によって不安もかき立てられる一方、不安定な街の至る所で人々は当然のように日常を過ごしており、画面全体からは、藪野が感じてきた歴史の背景にある複雑さを垣間見ることができる。

画面手前に視線を強調するように描かれている画家は、藪野が敬愛していた父である。父の死後、その姿は藪野の作品に頻繁に登場するようになり、風景の叙情性をより深めている。

藪野が描く風景はどれも視点や構図が印象的であるが、1990年代は特に藪野の空間表現が大胆になり始めた頃であり、鑑賞者の「眼ざし」が強く意識されているこの作品からもその変化を読み取ることができる。元々建築家をめざしていた藪野ならではの表現であると言える。

執筆者：尾毛久瑠美

②《語りつぐ丘》

制作者：藪野健

寸法：161×129 cm

素材：油彩、キャンバス

丘の上から街と海を眺める。ここは藪野が学生時代に立ち寄ったニースの丘である。

手前には机と椅子が大きく描かれている。机にはパレットや筆、瓶が置かれており、作者の視線と体験を共有しているようである。視線の先には絵を描いたりバイクに乗ったりしてそれぞれの時間を過ごす人々が、さらに先には穏やかな青い地中海と建物が密集した街並みが見える。一番奥には雲一つない、きれいな青い空が広がっている。ニースの位置する南フランスのコート・ダジュールは「青い海岸」を意味しており、キャンバスの約半分を占める青色がそのことを示している。

椅子の上には黒い飛行機と「1936-39」という数字がある。この数字はスペイン内乱が起きた年を意味している。藪野はスペインへの留学時代にスペイン内乱から復興するマドリードを見たことで、都市に関心を持つようになった。藪野はこの作品について、「同じ場所に、学生時代に立ったことを思い出していた。」と述べている。この作品は単なる風景画ではなく、藪野の学生時代の記憶の一部を描いたものなのだ。

執筆者：小林万梨子

*藪野健（やぶの けん）

愛知県名古屋市出身、1943年生まれ

早稲田大学大学院文学研究科修士課程芸術学専攻修了後、スペイン・マドリードのサン・フェルナンド美術大学に1年間留学。留学中に、スペインやイタリアを中心に数多くの街を訪れ、自分の目で見た人々や風景を絵画として残した。それ以降、「街歩きの画家」として国内外で都市風景画を描いている。作品中には本人が街を歩きまわって集めた数々の記憶や歴史的建造物、広々とした風景などが描かれており、現実・思い出・理想が共存している。おしゃべりをしている声が聞こえてきそうな都市や、内戦で傷ついた場所に理想と記憶を重ねた架空の町並などは、どれも藪野にしか表現できない都市風景画だろう。

早稲田大学では教授や會津八一記念博物館の館長を務めた経験があり、現在は荣誉フェローとして大学や芸術・文化推進に貢献している。また、早稲田大学の風景も数多く描いている。代表的な作品のひとつに、創立125周年を記念して制作された《集まり散じて》という絵画がある。これは現在、早稲田キャンパス14号館1階に展示してある。それ以外にも、多数の作品が早稲田大学の中央図書館やキャンパスの各所に展示されているため、学生は日常的に作者の都市風景画を目にすることができる。

③ 《土を結ぶ 04-17》



撮影者：吉澤彩

作者：山根耕

制作年：2004年

素材：陶

副題として「美は乱調にあり、諧調は偽りなり。と人のいう」と添えられている。明治、大正期の思想家、大杉栄(1885-1923年)の言葉を引用したものである。

作者は早稲田大学の出身であり、主に御影石をモチーフとした作品を多数制作している。この作品は地下1階に展示されており、周囲を白い壁で囲まれた地下空間に存在するため、遺跡のような印象を受ける。左側のオブジェクトは1つの石を2つの小振りな石が支える構造を持つ。一方右側は土台となる石が1つしか無いため、上部の石が傾き接地している。このことによって乱調による美を生み出している。

本来、大地の底で地盤を構成している存在である石の一部分を切り出し、地上において「石」らしい姿として改めて形を与えている。それはある意味本来の姿から離れた石が、我々に本質とはいったい何か、ということを訴えかけているのではないだろうか。

「存在の重みをたずねて、今太陽の下での石達の演技」と作者の言葉にあるように、石が本質を形成した地底での時間の経過やその存在の深さに改めて迫る作品となっている。

執筆者：吉澤彩

参考資料：

① 《眼ざし注がれる時》

藪野健『絵画の着想 描くとはなにか』、2003年、中央公論新社

藪野健『藪野健—記憶の都市』2007年、府中市美術館

『藪野健展』1982年、日動画廊

② 《語りつぐ丘》

フランス観光開発機構「ニュースのみどころ」〈<https://jp.france.fr/ja/news/article/31173>〉

2018年1月22日最終閲覧

教育×WASEDA ONLINE「知の共創 研究者ファイル」

〈http://www.yomiuri.co.jp/adv/wol/research/kyoso_090714.html〉、2018年1月22日最終閲覧

③ 《土を結ぶ 04-17》

宇部市公式ホームページ「彫刻とうべー山根耕」

〈http://www.city.ube.yamaguchi.jp/kyouyou/choukoku/library/artist/yamane_kou.html〉、2018年1月22日最終閲覧